

### あの日あつとき

## 押すな押すなの大盛況 白根町相撲大会

昭和30年9月8日、第1回白根町相撲大会が行われました。その当時は、相撲が大変盛んで、ふれだいが町をねり歩くなど、お祭り騒ぎでした。

### 第1回相撲大会番付

東	西
大関 姫小松 (渡辺勇吉)	荒岸 (吉川 輝)
中蒲原郡の大 会でも、居並ぶ 強豪を倒して上 位に入賞するよ うな姫小松、 若能登などの名力士も生まれました。	関脇 明 緑 (池田 誠)
小結 島 錦 (関根島治)	渡 辺 (渡辺幸治)

そのときの3役の番付表が、これです。



恵つまる熱戦を展開する相撲場

しかし、次第に出場力士も少なくなったことから、大会も昭和36年9月を最後に、惜しまれながらも幕を閉じてしまいました。昭和26年6月25日に土俵開きを行い、数多くの力士と名勝負を生んだ相撲場は、現在の白根小学校の中庭付近にありました。

### 【私の思い出】

渡辺律助さん  
(五六の町)



定錦、これが私のしこ名で、小結に位置したこともありました。しかしだんぜん強かったのは弟の姫小松でした。強かったですね。  
あのころは相撲が盛んで、大会は押すな押すなの大盛況でした。  
いまも相撲は好きです。テレビはかかさず巡業も必ず見に行きます。大相撲の本場所もときおり出かけます。



あざやかな緑に、色とりどりの花があふれる。明るく美しい白根市にしたいもの(本町通りで)

期待して行ってみたら、花いっぱいではなくて草いっぱいなのです。つつじの花は咲いているのですが、背たけほどもある「チガヤ」という草で見えないのです。このくせ者の「チガヤ」の草取りは、年寄りや子どもにとっても手も足も出ないほどです。少しだけでも、嫁菜やビヨビヨ草など抜いてはみましたが、とてもでも……。予算の関係で、手が届かないのかもしれないと、あの手も足も出ないの植えてみてもかわいそうだと思います。

まだ街にも緑が多い。けれども着々と減ってきているなあって感じます。そんなとき、広い道路に並木の緑、色とりどりの花の帯のある歩道を思うのです。そして、たくさん木々があつて、四季の草花の中を散歩できる広い自然に近い公園がほしいと思います。

実現したらいいと思う大きな夢。いまはそんな夢に近づきたく、小さな実行のときだと考えます。まず、家の前。玄関先に一鉢の植木を置くこと。一鉢の草花を育てることからはじめたい。隣の家のも、その隣も。そんな運動が市内一円に広がらないうちに、どんどん数を増やしていって、絶えない緑にしたいと思っています。

職業がら、神経を消耗する。これを少しでもいやするため、思ひかなわぬことではあるが、能力と境遇が許すかぎり、実行したいと思えます。それは四季おりおり花を自分の庭で育てることです。池にはコイが泳ぎ、小鳥が遊びにくる樹木を植えた。そして、家のまわりを緑の木々で囲みたい。こんな夢をもつて努力してきたもの、こと志と異なり、夢の半分も実現できない無能さを、ささやかな我が家の庭をながめながら嘆息しています。

街に緑を、花と緑の白根市のキャッチフレーズで推進しても果して市民がのるかどうか、不安が先立ち、妙案が浮かばない。しかし、努力すれば何とかなるかもしれない。一概に訴えても効果は疑問。長期計画で、年度別に、町内別に目標設定し、公表して市民の賛同を得て、品種の選定、あつせんなどをしたらどうでしょう。

それにはまず、市庁舎周辺が範をたれるべきだと思います。現況ではあまりにも殺風景。行政府が音頭を取り、長い時間をかけて市民を啓蒙していく必要があるでしょう。

宮崎市のよう、市の中心通りや街を流れる川のほとりに同じ種類の木を、太さ、高さの順に並べることは不可能なことなのでしょう。

## 来月のテーマ 市民憲章に思う

投稿ください  
みなさんの意見交換の場がこの市民談話室です。  
来月のテーマは、「市民憲章に思う」です。池田さんの提案について、気軽に意見をお寄せ

ください。また、新しいテーマと意見を提案していただいてもけっこうです。薄謝をさしあげます。ページの都合で、文を短くすることがあります。  
あて先は、大字白根1235 白根市役所企画財政課広報広聴係。7月17日までに郵便ポストへ。

### 今月のテーマ

## 緑と花のあるまち

私たちの白根市は、昨年市制施行二十周年というところで記念式典が催され、市民憲章が制定されました。その際、各家庭に市民憲章が配られて、もう一年になります。  
白根市は社会の進歩とともに年々その街並み、自然の姿容をとげています。また、社会の進歩とともに市民の要求は、増大してきているのではないのでしょうか。私たちの白根市を、より住み

よいまちにしようと思うとき、市民憲章にある「みんなの創意と工夫をこらした、住みよいまちをつくりまします」ということが大切ではないかと思うのです。まちづくりは行政だけにまかしておくのではなく、市民一人ひとりの手で作りあげるのが大切ではないでしょうか。市民憲章にそった市民運動の盛りあがりを見たい一人です。

### 今月の提案者

### 私の意見

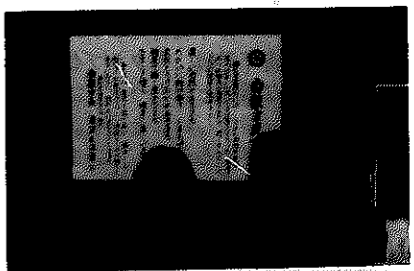
人生の節目を祝う行事などで記念の苗木を贈るのも一案かと思えます。公共的な建物が建て替えられるたびに、私たちの視界から緑が失われていくような気がしてなりません。  
学校や神社など、既存の樹木を守り続けていくことも大切なことではないでしょうか。

### 来月の提案者

池田泰雄さん  
(編者・会社員・27歳)

私たちの白根市は、昨年市制施行二十周年というところで記念式典が催され、市民憲章が制定されました。その際、各家庭に市民憲章が配られて、もう一年になります。  
白根市は社会の進歩とともに年々その街並み、自然の姿容をとげています。また、社会の進歩とともに市民の要求は、増大してきているのではないのでしょうか。私たちの白根市を、より住み

よいまちにしようと思うとき、市民憲章にある「みんなの創意と工夫をこらした、住みよいまちをつくりまします」ということが大切ではないかと思うのです。まちづくりは行政だけにまかしておくのではなく、市民一人ひとりの手で作りあげるのが大切ではないでしょうか。市民憲章にそった市民運動の盛りあがりを見たい一人です。



市役所の市民ホールに、市長揮毫の市民憲章